クリスチャン・コーチングにおける宗教観の取り扱い
――アメリカ人コーチと日本人クライアントのコーチング・セッションから考える――

饒　平　名　尚　子

1　はじめに

コーチングは、他者を支援する対話の一つとして日本でもビジネス、医療、教育などのさまざまな分野で少しずつ注目され導入されてくるようになった。コーチは「『対話』を通して相手の能力やアイディアを引き出す存在」（原口 2010, p. 19）とされ、「クライアントが豊かな人生を実現するために、クライアントの仕事・生活の場面で、主体性を引き出」す役割を持つ（原口 2010, p. 20）。そのコーチがクライアントと独特の対話形式（セッションと呼ばれる）を通してクライアントの語りを引き出し、新しい気づきと決断、行動を促すのがコーチングであると原口（2010）は述べている。

コーチングの際に、相談者のもつ価値観をコーチが知り尊重することは、重要である。なぜなら価値観は、人が生きる上で大切だと考えているものであり、さまざまな選択や決断に影響を及ぼすからである。宗教観も人がどのように生きていきたいか、人生のゴールに向かう時に何を大切にしたいかに深く関わるものであり、価値観と深い関連を持つ重要な要素の一つと言えよう。「宗教観を知ることでクライアントの大事にしている部分を知ることが出来」ると原口（2010, p. 226）も述べている。しかし、日本の風土の中では、コーチングにおける宗教観の取り扱いはまだ十分に掘り下げられているとはいいがたい。

本稿では、アメリカ人のクリスチャン・コーチと日本人クリスチャンの相談者（クライアント）によるオンライン・コーチングの実際のセッションを録画し、宗教観が重視されたコーチングのケース・スタディとして検討する。そして、コーチングにおける宗教観のうち、キリスト教に注目して、「祈り、聖書のことば、聖霊の働き」等がセッションの中で参加者にとって重要なリソースであり、相談者の抱える問題が神との関わりの視点から取り扱われ、解決に向かうプロセスを質的な談話分析により検討する。このことを通して、クリスチャン・コーチング的な対話が牧会や教会のリーダーシップに関わるさまざまな場面での応用可能性を秘めていることを示したい。

2　コーチングとクリスチャン・コーチング

コーチングの語源は諸説あるが、その一つは乗り物のcoachである。目的地へ誰かを運ぶという意味から、クライアントの目標達成や自己実現を効果的にサポートする役割をする人がコーチと呼ばれるようになったという（Collins 2009）。

コーチングの具体的な定義にはさまざまなものがあり、上記で原口（2010）が述べたものもその一つだが、Collins（2009, p. 14）は以下のような定義を示し、後程述べるクリスチャン・コーチングとの違い

を説明しようとしている。

> At its core, coaching equips people to move from where they are toward the greater competence and fulfillment they desire. Stated concisely, *coaching is the art and practice of enabling individuals and groups to move from where they are to where they want to be.* Coaching helps people expand their visions, build their confidence, unlock their potential, increase their skills, and take practical steps toward their goals.
> （斜体はCollinsによる）

コーチングは、クライアントが今いる地点からより大きな能力やのぞみの達成に向かい目標地点に達することを可能にする実践であり、人々がヴィジョンを拡大し、自信を持ち、可能性を広げ、スキルを磨き、目標に向かって具体的で実践的なステップをとることが出来るように助けるもの、とされている。Whitmore（1992）も、コーチングは人の成長を最大限にするためにその人の可能性を開放する（unlocking）と述べている。それはコーチとクライアントが対等な立場で相手を尊重しながら積み重ねていくダイアローグにより達成される（Armstrong 2012, 饒平名 2020）。

コーチングの中でもクリスチャンのコーチがキリスト教信仰を土台にして行うものがクリスチャン・コーチングであるが、主にアメリカで盛んになり今は世界に広がっている[i]。

Collins（2009, p. 22-23）は、通常のコーチングとクリスチャン・コーチングを比較して、違いとして、神とともに歩む人生という視点や神から与えられる人生の目的に向かって目標地点が捉えられる点を挙げている。

> The coach walks alongside as people make changes that will improve their careers, their families, their journeys with God, and their world. Like all other coaches, the coach helps people get from where they are to where they want to be.
>
> But Christian coaching has a greater, nobler, and more eternal purpose. At its core, *Christian coaching is the practice of guiding and enabling individuals or groups to move from where they are to where God wants them to be.* Human goals, dreams, aspirations, and gifts are not discounted, as these often come from God. But Christian coaches encourage others to find God's vision for their lives and to move from following their own agendas to pursuing God's purposes.
> （斜体はCollinsによる）

このように、個人の夢や仕事等の目標は他のコーチングと同様に大事にされるが（なぜならそれらもまたしばしば神から来るものと考える）、クリスチャン・コーチはクライアントの人生における神のヴィジョン、目的という、個人の枠を超えたより大きな視点に目を向け、目標達成することを支援するという。

Collins（2009）は、さらに、クリスチャン・コーチングの特徴としてコーチがもつ聖書的な世界観、

キリストを主、救い主と信じることから出てくる価値観、クライアントに対する祈りや霊的な側面への関心（特にクリスチャンのクライアントに対して）といった点を挙げている。

Duncan(2012）は、米国のクリスチャン・コーチへのインタビュー調査を行い、彼らの信仰的な基盤がコーチング実践に大きな影響を与えることを指摘している。それによれば、コーチ自身のアイデンティティや精神的な安定が、社会的成功というよりも神との関係性の中で堅固なもの（secure）ととらえられていること、またクライアントに対して神が目的や計画を持っていると信じて接すること、祈りや聖書などのリソースを持っていることなどが挙げられるという。

こうしたクリスチャン・コーチングは米国では牧会および教会内のクリスチャン・リーダーの育成のみならず、ビジネスの世界にも影響を与えるようになった（Collins 2009)。しかし日本ではまだクリスチャン・コーチングはあまり知られておらず、その具体的なやりとりについてもわかっていない点が多い。そこで本稿ではクリスチャン・コーチングの実際のセッション録画の一つをとりあげ、分析をしていきたい。

なお、コーチングは支援的な対話実践としてのカウンセリングとしばしば比較されるが、この二つは違うものである。クライアントを尊重し傾聴することの重視や、質問・承認などを通じてクライアントとのダイアローグを紡いでいくという点ではカウンセリングとコーチングには共通点もあるが、相違点としてはコーチングは自己実現、目標達成をしたい人や前進することを求める人を対象とするものである。心が非常に弱っている、あるいは臨床的に深刻な心理的健康状態にある場合は、コーチングではなくカウンセリングや治療が必要となる（Collins 2009, 上田 2010)。

3　データについて

本稿でとりあげるコーチング･セッションのコーチは米国在住のアメリカ人女性でPCCI（Professional Christian Coaching Institute）と呼ばれる世界最大級のオンライン・クリスチャン・コーチング養成校でトレーニングを受け、ICF(International Coaching Federation, 国際コーチング連盟[ii]）の認定資格も持つプロ・コーチである。これまでに英語のネイティブのほか、英語の非母語話者のクライアントに対してもコーチングを行った経験を持つ。このコーチのクライアントにはクリスチャンもいるが、クリスチャンではない人もいる。

クライアントは日本在住の日本人クリスチャン女性で、これまでコーチングを日本語で受けた経験はあるが、英語によるコーチング、しかもクリスチャン・コーチングは初めてである。米国に9年ほど住んだ経験があり、英語でコーチングを受けることに関しては、言葉の上であまり大きな不安は感じていない。

事前にコーチからクライアントに送付された”Getting to know you”と題されたアンケートでは、コーチングで話したいこととして現時点での人生の優先順位を明確にすること、健康的なライフ・ワーク・バランスを持つことが挙げられていた。以下はアンケートの一部抜粋である。

1. What are the 1-3 most important things you'd like to accomplish as we work together over the next 90 days? Please be very specific.
   Answer:
   To clarify what is more important to me at the current stage of my life and have healthy balance in my jobs and personal life.

コーチングはZoomによって行われ、参加者には事前に録画の了解を得た。コーチングの長さは75分前後であり、その後15分ほどセッションを振り返ってのフィードバックの時間をとった。また、セッション後に記述式での振り返り記録、コーチへのアンケートも行った。

なお、セッションは2021年3月に第1回目が行われ、その後も月2回の頻度でさまざまなテーマに関して継続して行われた。今回ケース・スタディとしてとりあげるのは主に初回のセッションのやりとりである。

4　開始部における祈り

どのクリスチャン・コーチングも必ず祈りから始まるというわけではないが、今回のデータでは祈りによってセッションが始まる。それはクライアントもクリスチャンであり、クリスチャン・コーチングを受けることを希望していることが事前にコーチに通知されていたことも影響したかもしれない。コーチへのアンケートでも、クライアントがクリスチャンである場合には祈りによってセッションをはじめ、終わりの時にも祈ることが多いとのことだった。

では開始部を見ていく。コーチはクライアントに、祈りによって始めることは大丈夫かどうか、どちらが祈るかをたずねる。これに対しクライアントは、自分も祈るが、コーチも祈ってくれるように提案し、両者の祈りが始まる。なお、下記スクリプト内では、顔の表情やしぐさ等は［　］内に示した。また、コーチの名はR、クライアントの名はSで記した。

1. Coach:　Uh do you, are you comfortable to start in prayer or would you rather I pray?
2. Client:　Do I pray or you pray…　okay. Uh, I can pray, and if you would like, you can um pray also?　I can start, and,
3. Coach: Yeah. Okay.
4. Client: Yeah.［コーチもクライアントも目を閉じる］
   … Um dear heavenly father, thank you so much for this time,
   Thank you also for R that uh she is willing to uh expand her coaching session period that is available to her,
   and I'm just so thrilled that you will be with us as we talk,
   and I life up this time in your hands,
   and you will make it fruitful for both of us.
   In Jesus' name, Amen.

5. Coach:［目は閉じたままで］I agree, Holy Spirit,

And we invite you, the spirit of wisdom, the spirit of revelation,

to come in a special way during this time,

that you would just um unite our hearts,

that you would pour wisdom into me

and you give insight, direction, light to S in the area she's longing for,

and I thank you for what you will do. Amen. [顔をあげ微笑む]

6. Client: Amen. [笑顔を見せる]

クライアントによると、祈ることはクライアントが過去に受けてきた一般的なコーチングでは、当然のことながら、無かった。初めてのセッションだったため、自分だけでなくコーチにも祈ってほしいと思ったという。

クライアントの祈りは主に神とコーチへの感謝、これから始まるセッションへの期待である。４のクライアントの祈りの中で、コーチがセッション可能な時間を広げたことへの感謝が述べられている(“she is willing to uh expand her coaching session period that is available to her”)。これは日本と米国の時差により、通常であればコーチングを行わない時間帯（米国にいるコーチの夕食時間にあたる夕方18時, 日本の午前８時）にセッションのスケジュールを組んだことへの感謝である。そして、神にこの時間をゆだねること、両者にとって意義深い時間となることを祈った。

コーチの祈りでは、最初に”I agree, Holy Spirit.”と述べている。クライアントとの一致を聖霊なる神に対して宣言することから始まる。その聖霊は、知恵の霊（the spirit of wisdom)、ものごとを明らかにする霊（the spirit of revelation）とも呼ばれている。そして聖霊が特別な仕方でセッションの場に来てくださるようにと招く。また、コーチとクライアントの心を結びつけ、コーチに知恵を注ぎ、洞察と方向性と光をクライアントの求める事柄に与えてくださいと祈る。

コーチの祈りは聖霊なる神に呼びかけ、その導きに向けられていると言えるだろう。コーチは、アンケートにおいて、聖霊の働きを重視していること、セッションを導く聖霊なる神の導きに自分は敏感になり常によく聞くことを意識していると答えていた。そのような意識がこの祈りにも表れていると言えよう。

5　目標の設定

目標の設定の仕方にもクリスチャン独特の観点が加わった。上記３のデータで述べた通り、事前にコーチからクライアントには“Getting to know you”と題したアンケートが送られており、その中でクライアントはクリスチャン・コーチングを経験したい、またワーク・ライフ・バランスについて扱うことから始めたいと申し出ていた。そこで、セッションの開始にあたり、祈りのあとコーチはその用紙に目をとめながら、”Is that what you would like to start？“とテーマについて確認をした。クライアントは今の生活がmessy（散らかった状態）だと思うと述べたのち、如何に神が助けてくれるか、コーチング

を通して話していきたいと語る。

1. Client: For the short-term goal, I would like to start with talking about my life and how God can help me? …through um coaching. … Does that make sense? I mean…
2. Coach: So, to look at your life and see how God can help you with all the messiness.
3. Client: Uh hum [Nods and laughs]

目標設定の冒頭から、神について言及をしている点は、やはりコーチとクライアントがクリスチャンであることが大きく影響していると言えるであろう。ワーク・ライフ・バランスは一般のコーチングでもテーマにのぼる事柄ではあるが、「神がどのように自分を助けてくれるか」という発言は、コーチとクライアントの両者がクリスチャンであるからこそ発言できた内容であろう。

このあとコーチは、もう少し具体的に話すことをクライアントに促す。そしてその答えとしてクライアントは物事の正しい優先順位あるいは焦点のあった優先順位（right priorities or focused priorities）を自分は今持っていないようだと告げ、健康的な優先順序（healthy priorities）を持ちたいと述べた。そこでコーチは“healthy priorities”とはどのようなものか述べるように求めた（発言６）。

4. Coach: What piece of that you want to work on right now?
5. Client: Hmm, I wrote on that sheet um
   I don't seem to have…right priorities or focused priorities,
   I …so … that, that will be one of the things that I would like to have,
   a healthy, um more focused priorities in my life,
   instead of having … less important yet seemingly urgent things pushing me around all the time.
6. Coach: Describe healthy priorities.
7. Client: Umm, …healthy priorities, wow, that's a good question.
   Um to me, to know what God wants me to do more clearly so that I will make sure that I have time and energy to work on that. …
   And healthy also means“balanced”to me.

コーチは、“Describe healthy priorities”と言うことによりクライアントが考えていることを明確化し、語や概念の意味について共通理解に立ったうえでコーチングをすすめようとする。ことばの意味や概念、思考の明確化はコーチングでよく行われるやりとりである。クライアントは７の発言で、healthy prioritiesが意味するものを明確化するプロセスを通して、より具体的に自分が何を求めているのかを吟味する。それゆえ、この質問は簡単に答えがでるものではないが、少し言いよどみながらも、“that's a good question”と言って考え始める。そして神の目的を知ることやそれを行うための時間とエネルギーがあることを大事に思っていることを語る。ここでもコーチの質問が引き出す答えに、ク

ライアントの宗教観が表現され、それがコーチに理解されてコーチングが進んでいく点は、やはりコーチとクライアントの両者が同じ信仰にたって神について自由に話すことができる場があるからであろう。それは、その直後のクライアントの発言にも継続してみられる。

8. Client: Different roles I have all need my attention, and uh
I suppose that God gave me those roles to take on the earth.
And yet sometimes I feel like certain roles are forgotten or not taken care of enough.
And some other roles just exhaust me.
So balanced priorities mean that I have time and energy to take care of those God's given roles, but can feel comfortable that discerning what, discerning what I should do now, and do not feel too guilty about the things that … that time and energy is not available for certain period.
9. Coach: So you are feeling guilty now.
10. Client: yeah.
11. Coach: [少し考える表情をしながら] How do you make decisions now?

このように、クライアントは地上で果たすさまざまな役割（roles）も神によって与えられたという認識を踏まえた上で、うまくそれらの役割をこなしきれていないと感じていると述べる。そして、どれを優先するかをわきまえ、時間とエネルギーが常に十分には注げないことについては、あまり罪悪感を感じずに済む（“do not feel too guilty”）ことがバランスのとれた優先順位（balanced priorities）だという考えを述べる。

これに対して９でコーチはクライアントの使ったguiltyという言葉をとりあげる。これもまた宗教的な意味合いを含んだ言葉である。神の視点とクライアントの罪悪感の問題は、このあとセッションの中で再びとりあげられ、霊的な戦いや神の視点から見たクライアントのアイデンティティの気づきへと対話は展開していった。

6　リソースとしての聖書の利用

セッション中、コーチ又はクライアントが聖書の箇所を読み、引用することがしばしばあった。クライアントが語る問題について、聖書が何を言っているかを参照することは、神の視点を確認し、前進していく力として有用な資源（リソース）となる。

以下、具体的な事例を見ていく。今回問題を語る中で明らかになったのはクライアントが抱える恐れの感情であった。クライアントは“I'm afraid”, “I fear,” “It's the fear…”といったフレーズを繰り返し使用し、問題の核心部分に恐れがあることが言語化された。そして、恐れを感じて生きるのではなく神に創られた自分で在りたいと頭ではわかっていると述べる。コーチが聖書の箇所を読むことを提案するのはこの時であった。なお、スクリプト中、大きく発音された箇所は大文字で示した（発言12の

FEAR)。

1. Client: I don't believe that God wants me to live under control of fear.
He created more abundant, fruitful life? …
So, I understand so far [笑う]
And uh …um … so I want to uh be able to say "no" to fear and "yes" to uh what God wants me to do, and what God wants me to be.
Yeah, it's not just doing but being the person that God wants me to be,
Yeah, because doing is again … can be a trap for me to gain favor from other people.
2. Coach: You know this in your head [体をスクリーン前方に近づける]
You can teach it.
But your heart has not coming into agreement with it [首を振る]
3. Client: そうね。Yes, I think that's true. Yeah.
4. Coach: Do you have the Bible? Nearby?
5. Client: Yes!
6. Coach: Can you look up Second Timothy? One seven?
7. Client: Second Timothy … [眼鏡をかけて聖書の箇所を探す]
8. Coach: I'm assuming you have the Japanese Bible in front of you.
［中略。ようやく聖書の箇所を見つけて読む］
9. Client: Aaah!
10. Coach: Can you read that? Out loud?
11. Client: Um for God did not give us a spirit of timidity, but a spirit of power, of love and of self-discipline. Let me read that in Japanese also just to make sure.
［日本語の聖書を読む］Umm, I see.
12. Coach: Other translations say "God did not give us the spirit of FEAR."

このように恐れがキーワードにあがっている聖書箇所（新約聖書テモテへの手紙第２の1章7節）を読み、恐れは神からのものではないこと、神は恐れではなくpower, love and sound mind(別訳による)を与えることをコーチとクライアントは聖書箇所を通して確認した。そしてこの後、霊的な戦いにおいて、恐れに対してどのように対処するかにコーチングの焦点が移っていった。

聖書に目を向けることや、聖書のことばに信頼し、それを手掛かりに問題への対応方法を考えていくことは、クリスチャン・コーチングならではのことであろう。このセッションの振り返り記録の中で、クライアントは次のように参照した聖書箇所が問題の根に効率的に届きそれを克服するツールとして有用だったと記している。

The difference between a regular coaching and a Christian coaching was evident by the

presence of the Holy Spirit. It is so much more efficient to see the root of the problem – the spiritual battle, the lies of the enemy, the persistence of the enemy – as well as the tool we can have against the battle – God's power, love and wisdom revealed by Jesus and recorded through the word of God.

こうして聖書のことばが用いられただけでなく、そこに示された神の力、愛、知恵を問題解決に向けてクリスチャンは用いていけるという気づきも重要であった。

コーチもまた、“Sometimes we do listening prayer together as Christians and sometimes I bring out the Bible to coach through a passage of Scripture. This allows for deep spiritual change, not just behavioral change for people.”とアンケートで述べ、両者にとって聖書が重要なリソースでありクライアントに変化をもたらす力強いツール、それも行動の変化だけでなく霊的な変化をもたらすものであることが指摘されている。

7　アイデンティティの再確認

セッションの後半では、恐れに対して「ノー」ということが対処法としてクライアントの口から語られたが、コーチはそれだけでなく、何に対して「イエス」と言って招き入れるのかと質問した。こうして否定する対象だけでなく肯定し受け入れる対象が明確化されるプロセスの中で、クライアントのアイデンティティの認識にも変化が起きる。招き入れるのはセッションの中で参照した聖書の箇所にある神の力、愛、そして知恵であった。

1. Client: Saying “yes” to God, saying … you know um I think that's really something I need to do?
   You know, I was always saying, thinking of running away from … pressure, …
   Running away from fear and darkness?
   but then I wasn't sure to, to where … I was running to,
   a::nd I have to run to God's love because God's love …gives, is the light and the light that overcomes darkness.
2. Coach: That's the power! That's the wisdom! ［笑顔］
3. Client: Yeah. And God …God created me in love, right?
   So I can just run to His light and love so that I can receive power, God's power to live the abundant life. Wow, that's great!

このように、クライアントはいつも否定的なことから逃げることを考えていたが、それだけでなくどの方向に向かうことが大事か気付いたと述べる。クライアントの答えに出てくるのは、闇に抗する光であり、自分が神によって愛のうちに創られたというアイデンティティの再確認へとつながる。神との関

係性の中で自分のアイデンティティが再度認識され、そのことが恐れに対処する力の源となる、という気づきである。

セッションの最初で、神の視点から自分のワーク・ライフ・バランスを考え、健康的な優先順位を持ち豊かな人生を歩みたいという希望をクライアントは語っていた。聖書を読み、神との関係性においてアイデンティティが吟味される中で、クライアントの問題の本当のルーツは解消の糸口を見つけることができたとクライアントは考えた。そのことが、“Wow, this is great!”という感嘆の声につながったと言えるであろう。

この後、セッションではこれまでのやりとりを踏まえて、次の2週間の間に具体的に何をするかを次のようにコーチが質問し、具体的なアクション・プランを考えることにセッションは展開していった。

Coach: In light of what you are hearing, what, what do you want to do with that over the next two weeks?

8　クライアントによるコーチングの評価

クライアントの立場から、このセッションはどのように評価されたのであろうか。セッション後の振り返りの記録において、「セッション中に、神様について言及することができるのは、クリスチャンとして有難かった。My beingが神に創られた存在としてのbeingだから。」とクライアントは述べている。

宗教観やそれに基づく世界観、聖書のことばがリソースとして利用でき、クライアントのアイデンティティの変化を促した点は、このクライアントにとって有益であったと評価している。

さらに、自分が神との関係性においてどのような存在か（今回のセッションでは、クライアントは自分が「神に愛のうちに創造された」と述べていた）という理解は、単にリソースが広がりアイデンティティが確認されるというだけでなく、そのような関係性を可能にならしめた神への信仰の告白ともいえるのではないだろうか。クライアントは次のようにも振り返り記録で述べている。

すでにわたしのものになっている、神の子に神が与える、暗闇の力に勝つパワー、authorityに気づくこと、それを今後使っていくことが、変化につながる。神の創られたabundant lifeにたどり着く近道となる。

これは、イエス・キリストによって達成された罪や暗闇の力に対する勝利を信じることからくるものである。過去に一般的なコーチングを受けてきた経験からクライアントは、恐れや不安の源として霊的な戦いという視点があったこと、聖書的な価値観、自己観に沿った方策を考えたことは重要だったという。

もしノン・クリスチャンのコーチだったら、feeling of insecurityのルーツが生い立ちにあることを

語ったあと、それに対するspiritual warfareという方向ではなく、「おばあちゃんなら今のあなたに何といってくれると思いますか？」などの視点の転換、「不安に負けないでできた時ってありますか？」などの成功体験を語る、などの方策に動いたかもしれない。それらも十分に有効だとは思う。しかし、クライアントの価値観（聖書的な価値観、自己観）に沿った方策をとることはよりeffectiveであろう。

9　まとめと課題

ここで分析したものは、必ずしもコーチングの典型ではない。コーチがベテランの信仰者という立場からコーチングというよりもメンタリングに近いやりとりもある。また、このセッションはクリスチャン・コーチングの典型として捉えるものでもない。あくまでも一つの実践例としてみるべきものである。しかし、キリスト教の価値観や世界観をベースにしたクリスチャン・コーチングの特徴のいくつかは描くことができたと言えるであろう。それらは次のようなものであった。

・祈りの存在
・聖霊の働きに敏感であること
・聖書の使用
・神との関係性に基づくアイデンティティのポジティブな変化
・神がどのような存在かを認識することに関わる信仰告白的側面
・信仰のことを自由に話せる場の存在
・霊的な戦いといった宗教的世界観・視点

これらのうち、特に最初の３つは（Duncan（2012, p. 41）が研究の中でクリスチャン・コーチたちが一般のコーチングに加えてさらに用いるリソースとして挙げたものとも重なっている。

> The coaches believed that they brought in a plethora of additional resources including prayer, the Bible and God working in various ways in the coaching sessions.

このようにクリスチャン・コーチングでは、祈りや聖書といったリソースの追加、セッションの場に神もともにおられ導くという認識、聖書に基礎を置く世界観や価値観が一般的なコーチングの枠組みに加え重要になる。特に生きる上で大切にしたいことが宗教観とつながっており、それが尊重され活用されるコーチング・セッションは、クライアントにとって問題の根本を捉える上で効果的、効率的と感じられるものであった。

今後、日本でもクリスチャン・コーチングが牧会やリーダーの育成、教会の成長のために用いられていくことは、重要になってくると思われる。一人一人の存在を尊重すること、神からの賜物を活かし神の計画や目的を探求していくこと、神との関係性において健全な自己アイデンティティを持つこと等は

クリスチャン・コーチングを通して生き生きと達成していくことができるであろう。コーチング・マインドをもった良きクリスチャン・コーチや牧会者が育っていくことを願う。

今後の研究課題としては、さらに多くのセッションの分析を通して、クリスチャン・コーチングの本質を探ること、一般的なコーチングとの比較、キリスト教以外の宗教観に基づくコーチングの検討もあるだろう。また、今回のセッションは、コーチとクライアントがアメリカ人と日本人という異文化コンテキストにおけるコーチングであった。それゆえに、コーチは英語のノン・ネイティブ・スピーカーに対してゆっくり話し、言葉の選択を意識的に調整したと振り返りにおいて語っている。文化の違いや異なる言語によるコミュニケーションといったコンテキストにおけるコーチングについても今後詳細な分析が必要である。それらは外国人への福音の伝達やクリスチャン・コミュニティとしての多文化共生についても重要な示唆を与える可能性があるからである。

---

i クリスチャン・コーチングの始まりも諸説あるが、その創設に深くかかわった人物の一人としてChristopher McCluskeyがしばしばあげられる。McCluskey　はアメリカで初めはカウンセラーだったがコーチングに出会って後コーチに転じ、PCCI（Professional Christian Counseling Institute）というクリスチャン・コーチ養成校を創設した。ホームページによれば創設は1999年となっている。

ii ICFは世界最大のプロ・コーチの団体で、コーチングの倫理・資質の規定、コーチの質向上のためのトレーニング、認定資格の付与、情報提供などさまざまな活動を行っている。

参照文献

Armstrong, H. (2012). Coaching as dialogue: creating spaces for (mis)understandings. *International Journal of Evidence Based Coaching and Mentoring* Vol. 10, No. 1, February 2012, pp. 33-47.

Collins, G. (2009). *Christian Coaching: Helping Others Turn Potential into Reality*. 2nd edition. NavPress.

Duncan, P. (2012). Examining how the beliefs of Christian Coaches impact their coaching practice. *International Journal of Evidence Based Coaching and Mentoring Special Issue* No.6, June 2012. 30-45.

原口佳典（2010).『100のキーワードで学ぶコーチング講座』創元社。

上田純子 (2010).「コーチングとカウンセリングの違い」『児童心理』2010 年6 月号 臨時増刊 No 915. pp. 28-36.

Whitmore, J. (1992). *Coaching for Performance: The Principles and Practices of Coaching and Leadership: A Practical Guide to Growing Your Own Skills*.

饒平名尚子（2020).「コーチングの本質としてのダイアローグ的関わり」『フェリス女学院大学文学部紀要』55号. pp. 141-156.

（よへな・しょうこ）

フェリス女学院大学文学部教授